

東京商工会議所女性会

東商 Lady

第18号 2012.12

【巻頭対談】

日本赤十字社 社長

近衛 忠輝 氏と吉川会長

「手を繋ごう女性の絆」

東日本大震災から1年 私達のとrikみの記録

吉川 国際赤十字・赤新月社連盟の会長という役職に就かれてどれくらいですか？

近衛 2005年に日本赤十字社社長に就任後、同年より国際赤十字・赤新月社連盟の副会長を1期4年務めさせていただき、2009年11月に会長に就任し、丁度丸3年が経過したところです。

吉川 日赤での社長と国際赤十字・赤新月社連盟会長の違いは、どんなところですか？

近衛 各国の赤十字社ないし赤新月社は全く独立しています。その187カ国の社が集まって連盟を作っているのですが、その会長を私が仰せつかっています。日赤の社長なら日本の立場だけ主張していればよくても、全体の調和を図るのには簡単ではありません。各社の抱えている問題はいろいろあります。自立できない貧しい社も多くありますし、政情不安定のアラブ諸国であれば、政府とあまり密着せず、いかに中立性を保つかが一番のポイントになります。大きな国際救援では、各社の活動の調整に汗をかかなければなりません。

吉川 現代人の考え方は、どうしても右か左かという傾向が強いです。その人によって違う善悪や価値観の違いを、どう中立と言いますか両者ともに立てる道を模索して

いくかというところが、大変重要なお立場ですね。

近衛 子供の頃、父から論語を教えられたので「中庸の思想」に興味があり、イデオロギーによる色分け一辺倒には反発しながら育ちました。

それに、過去のしがらみや政治的宗教的な面から見ても、日本は比較的「中立」と言えます。相手の立場に立って考える文化があつて自分の流儀を押し付けることがないし、政府はODAで、また日赤も様々な国への援助を行ってきましたから、好感をもたれています。そのようなこともあつて、日本人会長は調整役として適切なのでしょうか。

吉川 実際には近衛様への信頼とご実績も伴つて故と存じます。赤十字自体も人道を基本に、公平、中立のバランスを非常に大切にされていると伺っています。

近衛 第二次大戦後、国交が無くなった国、例えば、中国・ソ連・南北朝鮮などとの人道問題の解決も、政府に代わって行う赤十字の大切な業務でした。たとえば、在日朝鮮人の方を北朝鮮にお帰しした事業など、まさに中立性が厳しく問われる仕事でした。

吉川 日本赤十字社のこれから目指す方

向性はどんなことでしょうか？

近衛 赤十字の基本原則である人道は、「あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減する」としており、予防も大切な使命です。赤十字の役割は、災害が起きた後での救援というイメージが今でも一般的です。もちろん災害が起きてからの救援はとても大切ですが、災害ができるだけ起こらないようにする、起きてても被害を最小限にするという努力を日ごろから続けていく必要があります。救援だけではなく、災害に強い体力作りのための開発協力にも赤十字は力を尽くしていることを、もっと知っていただく努力が必要と思っています。

東日本大震災義援金についての風評と現実

吉川 まず、多くの人から

誤解されている義援金と赤十字の活動資金の違いについて教えてください。

近衛 赤十字では、私たちの活動に賛同

して毎年500円以上の社費（会費）を出して下さる方を「社員」と呼びし集めるのを覚えておいての方がいいでしょう。私たち日本赤十字社の活動は、個人や法人である社員の皆様からいただく社費や寄付によつてはじめて実施できます。東日本大震災でも、救護活動に出る医師や看護師の経費、毛布など日頃から備えておくべき救援物資を買う費用もすべてそこ

近衛忠輝氏

日本赤十字社 社長 / 国際赤十字・赤新月社連盟 会長
1939年5月8日（世界赤十字・赤新月デー）東京生まれ。学習院大学卒業後、ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスに2年間留学。帰国後日本赤十字社に入社。以来40年以上にわたり赤十字一筋で活躍。2005年、日本赤十字社社長に就任。同年11月、187カ国が加盟する国際赤十字・赤新月社連盟の副会長に就任後、2009年11月、国際赤十字・赤新月社連盟の会長に就任し、現在に至る。

【日本赤十字社 web サイトよりプロフィール用に抜粋】

から出ています。

また特に、昨年の大震災では発災直後から、たくさんの方の義援金をお預かりしたことによる事務作業の増加に加え、義援金の使い道の問い合わせなどが相次いだため、月に4000万円をかけてコールセンターを開設しました。こうした多額の経費に充当するために、日ごろから皆様にご協力いただいている財源をあてざるを得ませんでした。

吉川 当時は、義援金が正しく被災者に行き渡らないのでは？といった、残念な風評も流れました。私達も間違った印象は拭き取ってゆきたいので、この機会にもう一度整理させていただきますか？

近衛 日本赤十字社は大きな災害が起きる都度、被災された方々への見舞金として義援金の受付を行っています。今回日本赤十字社に集まった総額は、3226億円（12月3日現在）という歴史上もっとも大きな金額となりました。これらを一切の手数料をいれず、NHK、共同募金会が集めた404億円（12月4日現在）と合わせてすべて被災地の行政を通じて被災者にお届けしました。大概の災害では被災者は1都道府県におさまることが多く、そこが主体となって配分委員会を設置して配分

基準を定め、市町村が受給資格のある被災者を認定して配分に当たってきました。

しかし今回の震災では、15都道府県にも被害が及びました。配分には当然公平性が期待されており、地域ごとにばらばらの基準を作られると配りようがないので、共通の基準を作っていただくよう政府にお願ひし、特別の委員会ができました。さわやか財団の堀田力さんにその座長になっていただき、被災した15都道府県や日赤などの代表からなる義援金配分割合決定委員会をつくり、各都道府県への割当額が決められました。日本赤十字社と共同募金会はお金を集める役割を任せていますが、配布は被災者・罹災者証明を出す行政の窓口で行っていたく必要があります。しかし、今回の災害は行政の機能さえ麻痺するほど被害が大きく、それが配分の遅れにつながりました。

例えば、住宅の被害認定は行政が足を運んで確認を行う手間のかかる作業です。また、避難先がつかめない被災者も多くおられるし、行方不明者がおられるご家族は、心情的に死亡届はなかなか出されません。そんなこともあって、対象を最終的に特定して給付するまでには時間が必要でした。

吉川 全てをなくされた方は本当にお気の

毒としか言いようがござい

ません。素人者えとしては、やはり早く配ってほしいと思っておりますが……。

近衛 協力をしてくださった皆様にしてみれば「せっかくだけ

とお感じになるでしょう。もちろん我々も同じ気持ちです。対象者の特定などをあまり厳しくせずに、まずはわずかでも被災者の方という声もありますが、人様の善意の義援金をお預かりしている以上、無責任なことは出来ませんし、配分の役割を行政が任けている以上、それに協力するのが精一杯できることでした。被災された方々に最も身近な行政ほど目の前の緊急の事態への対応で手一杯であり、義援金に対応する余裕が無かったのも実情です。自治体間の相互支援にも限界がありました。

我々が義援金の扱いについて旨として「公平性・透明性・迅速性」に照らして考えれば、迅速性の面では我々の手に負えない部分が多く、結果誤解を招いたりして多くのご心配をおかけすることになってし

まったこととは残念でした。

しかしながら今後同様のことを繰り返さないために、義援金についての理解と迅速に配分できる工夫を議論し、少しでも早く被災された方に届けられるよう国、地方自治体、関係機関と協議を進めているところです。今現在、義援金は約9割、45万件以上の方々（延人数及び世帯数）に届けられています。亡くなられた方のお宅には、死亡者1名に対して、地域による違いはありますが、11月末の時点で平均約114万円をお配りできています。全壊住宅にも凡そ114万円、半壊住宅にも凡そ58万円が配分されています。



吉川 やみくもに一律支給すれば被災者へ早く届くかといえば、自治体側の事情から難しかったのですね。病院や学校、役所までも建物ごと流された。不便は想像に余りあります。

近衛 義援金は現金支給ですが、一方、長く避難生活の中で高まっているニーズや様々な復興ニーズに対しては、海外の赤字から頂いた救援金による復興支援事業に取り組んでいます。これまでに日本円で588億円を超える救援金が届きました。が、病院の再建や、介護用ベッド、福祉車両の提供、学校の保健室や給食センターの備品の整備、子どもたちのサマーキャンプ、仮設住宅13万戸への家電6点セット（冷蔵庫、テレビ、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、電気ポット）の提供を行い、大変感謝していただきました。また、クウェートの石油公社から約400億円相当の原油の寄贈があり、現金化して被災地の再建のため広く使わせていただくことになりました。具体的には特に被害が甚大だった岩手・宮城・福島県の3県で、例えば三陸鉄道の復興など地域基盤復興をはじめ、医療、福祉・介護教育、農林水産、中小企業、雇用、原発事故被災者の8分野の支援について、地元行政と綿密な検討の上で進められています。

世界からの温かい支援

吉川 世界からの救援金ほとんどが、日本赤十字社に集まってきているわけですね？

近衛 多様なニーズがある中で、窓口が限られているのは必ずしもいいことだとは思いません。ただ、外から見るとき、信頼度、国際的知名度、実績の面で、日本赤十字社に集中してしまうのだと思います。それで、通常赤十字が関わっていない分野でもニーズが高く支援者の同意が得られるならば、幅広く応えるようにしていきたいと思っています。

吉川 私も今回初めてクウェートのお話を伺いましたが、一般の国民も世界のどのような国々の方が我々を応援してくれているのか、わからない部分も多々あると思います。日本人としてぜひ知っておきたいことです。それを少し教えていただくことは可能でしょうか？

近衛 各国からの寄付の表も当社のホームページには公開されています。そして、金額の多い国への感謝はもちろんですが、国は貧しくても子供たちがお小遣を削って集めてくれた20〜30万円という思いのこもったお金もとてもありがたく感謝の気持ち

を伝えたいですね。

支援に対する思い

吉川 東商の女性会も、被災地の女性会經由で送る義援金を会員から集めたり、下着や生活必需品を全国から集めお送りし、各社で節電など、対応を行ってきました。また、社会貢献の委員会がございまして昨年12月には東儀秀樹さんのご協力でチャリティコンサートを行うなど、女性会のネットワークを通して長い時間をかけて支援活動を行っています。

近衛 緊急段階での会をあげてのご支援は心強い限りですが、その上に、息長く被災者のニーズに関心を向け続けてくださるのがあります。ウクライナではチェルノブイリ原発事故から26年経ちましたが、まだ入ることができない地域があったり、住民の健康や環境のモニターをしなければならぬ状態です。福島の事故も同じ前提で考えねばならないでしょう。今まで、原発事故による被災者の救援について国際的な共通の対策はほとんどありませんでした。それを先の赤十字の国際会議で取り上げました。原発賛成か反対

かはともかく、原発がある以上、事故への備えを欠かすことはできず、世界が一緒に考える時代がきています。

今、「原発を廃止」と決めても、完全に停止するまでには10〜20年かかります。また核廃棄物の問題は未来永劫続いてゆきます。代替エネルギーの可能性を探りながら、当面は原発を含むエネルギー源のベストミックスを考えながら進んでいかなければならず、そうである限り何らかの対策が必要ですね。

原発事故に関する世界共通基準を作る

吉川 世界の目線から見ると、原発は今後どうあるべきとお考えですか？

近衛 今、世界の約30カ国に400基を超える原発があり、計画中の国も多くあります。しかし、事故については経験が少ないうえ、どの国も事故対策についてはあまり公開しないので情報の共有ができていません。それを狙に乗せて国際的に議論しようというのが私の考えです。赤十字の活動の根幹にある災害の予防という使命の環ですね。

吉川 一国で収まる話ではありませんから、特に大陸続きの国ではどうなるか心配でしょうね。

近衛 避難地域を定める基準一つをとっても各国で違います。それでは現実には困るわけです。原爆と原発事故の両方を経験した国は日本だけです。日赤は広島と長崎に原爆病院をもっており、原爆症の治療に実績を持っていますし、その経験はチェルノブイリ事故の後にも生かされています。ですから原子力利用に伴う被害の軽減は、私達の使命と考えています。

食や生活環境の安全について一般市民の関心があるのは当然ですが、放射線量の測定などに一般市民やボランティアの協力をお願いするのもよいことと考えています。

日本赤十字社の多岐にわたる活動

吉川 御社の社会福祉事業では、児童虐待や育児放棄の顕在化により、子育て支援の地域福祉活動もなされていると伺いました。私ども女性会では、その中でも「食」は大事と考

え「食の研究会」を作りました。次の世代に何を伝えていくべきだと思われませんか？

近衛 日赤は全国に児童、高齢者、障害者の施設を運営しています。幾つかある乳児院では、確かに虐待や、育児放棄の児童が増えています。世代を越えて「人間の尊厳」を伝えてゆくのが赤十字の使命だと考えています。健康に関しては、年間延べ約3千万人の方が赤十字病院にいられます。日赤にはその他に血液事業があります。献血に来られる女性の16%は、血液の比重が低く献血が不可能です。そのような善意を持った方々の健康へのお手伝いをするために、栄養指導を行って「元気になっ

てからまたいらしてください」と送り出しています。

吉川 そのような女性が増えると、日本社会の元気が失われるだけでなく、少子化に拍車がかかる可能性がありますね。

近衛 また小児医学会から依頼を受け昨年からは始めたのですが、糖尿病の母親が出産する子に先天異常が多いことがわかってきたので、献血の際に糖尿病検査を導入して成果を上げています。今後は健康増進のために、血液事業に更に付加価値をつけていきたいと考えています。

吉川 献血をAIDS検査目的で受ける人が増えているようですが。

近衛 AIDSの場合、検査のために献血にくる人が増えれば大変なことになりますから基本的には告知しません。ただ、医師の判断で、医療機関での検査を奨めるケースはあります。そうすることでAIDSの発症や感染拡大を防げる場合もあるわけですから。

赤十字思想誕生150周年…創始者アンリー・デュナンとは

吉川 赤十字の事業は幅広く、総合的に

健康管理までも行つてくださるとわかりました。たいへんありがたく、うれしさと共に感謝申し上げます。

赤十字と言えば、一番に思い浮かべるのは、健康を守る赤十字病院という印象がありますが、実は、アンリー・デュナンが提唱した赤十字は、人々の命や健康だけでなく、人間の尊厳を守ろうとするもので、そのために必要な平和への危機に対して世界へ警鐘を発してゆく役割も担っているといきました。

近衛 赤十字の創始者であるアンリー・デュナンはスイスの銀行家で、事業への支援の要請を目的に、イタリアに出陣していたナポレオン3世に会いに出かけました。そこでソルフェリーノの戦い（1859年）に遭遇し、戦場に打ち棄てられた傷ついた兵士達の悲惨な状況に心を打たれ、近くの村からボランティアを募って敵味方を問わない救護活動を開始しました。後にその時の思い出を本に著し、中立の救護の組織を各国に作り、その活動を保証する国際的な取り決めを各国政府が結ぶことを提唱しました。それが実を結んで各国に赤十字が誕生しました。そして今では、187カ国にそのネットワークは広がり、人道に関わる様々な活動が行われています。国際的



な取り決めとしては1864年に最初のジュネーブ条約が結ばれ、それが次第に充実して今日国際人道法と呼ばれています。

赤十字は戦時の救護活動から始まりましたが、やがて災害救護、医療、福祉、血液事業等にも手を広げ、人々の命や健康を守るだけでなく、人権思想の発達に合わせて苦境にある人々の尊厳の保護にも関わるようになりました。

◆◆◆ 今後の活動について

吉川 近衛社長は今も国際的にたいへんご多忙ですが、これからの活動はどのようなものになりますか？

近衛 紛争関係では、これまで3万人以上が命を落とし、未だ事態収拾の兆しが見えないシリアの人道危機での継続した支援活動があります。また、災害救援関係では先のアメリカや中米諸国を襲ったハリケーン・サンディなど、気候変動をはじめとした災害の増加、紛争と災害が重なる複合危機への対応が一層必要になると思われませんが、その他にも、世界中には話題にならなかつたり、忘れられた災害が多くあります。そうした災害の被災者にも、どう

したら公平に支援の手が差し延べられるか考えて行かねばならないと思います。

冷戦直後に『歴史の終わり』という本が出ました。市場経済と自由民主主義が統制経済と社会主義に勝ち、それに変わっていく制度は生まれないので歴史は終わつたという内容でした。しかし、実際、歴史は終わるどころか市場経済と民主主義の課題ばかりが見えてきており、人道的な見地からも関心を持たざるを得ません。

吉川 最後に、この仕事に40年関わっていらして「やってよかったこと」「うれしかったこと」「大変だったこと」など、お聞かせいただけますか。

近衛 冷戦が終わり、ベルリンの壁崩壊後、今まで本音で話せなかつた多くの人と話せるようになり、自由に行ける国が増えて世界が大きく広がりました。友達も増えました。そしてやっと、赤十字にとっては人類共通の課題を、同じ土俵で話せる環境が整ってきたといえます。

冷戦時代を振り返ると、色々と「やってよかった」「うれしかった」「大変だった」ことが思い出されます。

吉川 震災後の復興が課題となっておりませんが、今後日本人が元気になるために国が考えたら良いと思うアイデアがございま

したらお聞かせいただけませんか？

近衛 今回の災害では、多くの日本人がグローバルな時代に生きていることを実感したと思います。インターネットの普及で情報は一瞬にして世界に広まり、多くの同情と支援が寄せられる一方、原発事故では情報の遅さや不足が海外からも批判されました。救援活動の透明性、説明責任も、グローバルに求められ、それを的確に果たすことで評価は高まると思います。

多くの支援が寄せられた背景としては、長年にわたる日本の国際協力の評価、日本の文化及び日本人に対する好感度、被災者の忍耐力と自制心への敬意、そういったことがあつたのではないのでしょうか。日本人として誇りに思うと同時に、折角強まった国際的な絆を更に強める絶好の機会とすべきだと思えます。

また原発事故一つを取っても、そこから学んだ教訓を広く国際的にシェアしてより良い対策を打ち立てるために、わが国がイニシアチブを発揮すべきだと思っております。

「禍いを転じて福と為す」という覚悟があれば、世界に誇れる様々な取り組みが色々な分野で可能であり、日本赤十字社もその中で果たせる役割を究めて行きたいと

思います。

吉川 さまざまな面から、赤十字社の期待されるところは多くあるということですね。私達も、これからいつそう応援したいと思えます。

本日はありがとうございました。

◆◆◆ 日本赤十字社

赤十字は「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」という7つの普遍的な原則のもとに、世界最大のネットワークを持って活動する人道機関。「赤十字国際委員会」「国際赤十字・赤新月社連盟」「各国の赤十字社・赤新月社」の3つの機関で構成されており、日本赤十字社は世界の187カ国に広がる赤十字・赤新月社のひとつ。2009年から2013年までの間、「赤十字150年」キャンペーンを展開中。



URL: www.jrc.or.jp

平成24年 東京商工会議所女性会 新年懇親会



平成24年1月26日

新年懇親会

シエラトン都ホテル東京「醍醐」の間において、
平成24年東京商工会議所女性会
新年懇親会が開催されました。
多くのご来賓の方々にご参加いただき、
厳選されたお料理をいただきながら、
和気藹々と新春を言祝ぐ盛大な宴となりました。



新年懇親会の開宴に先立ち、ウエルカム
アトラクションとして、亀渕友香氏&VO
JAによる、ゴスペルアトラクションが行
われました。亀渕友香氏と12人のシンガー
による、新春にふさわしい、「よろこびの唄」
から始まり、「幸せなら手を叩こう」、「お
江戸日本橋」と、楽しい歌の数々に聞き惚
れ、最後はゴスペルの定番「オーハッピー
デー」で締めくくられました。

そして、午後6時、司会の古谷治子理
事の紹介によって、吉川稲東京商工会議
所女性会会長が登壇。
「昨年3月の震災を思うとき、それぞれ
が緊張の思いで新年を迎えられていること
と存じます。そのような中、石原都知事、
岡村会頭をはじめとする多くの来賓の方
にお出かけいただきまして、新年会を
開催できますことを感謝いたします。ま
た、本年はこれまで最大の会員のご参加を
いただいたことに、女性会の活動の大切さ、
絆の深さを感じております。
昨年の震災の際には、私たち女性会と

東商女性会 会長
吉川 稲



東京都知事
石原 慎太郎



東京商工会議所 会頭
岡村 正



東京商工会議所 副会頭
渡邊 佳英



小泉清子名誉会長寄贈の個人賞の当選に記念撮影



して、まず皆様に義援金をお願いをさせていただいたところ、1000万円を超える義援金を皆様からいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。また12月の1日には、震災で親御さんを亡くされた子どもたちのために、東儀秀樹さんのご協力のもと、チャリティーコンサートをさせていただきました。これからも、息の長い支援を心を合わせて続けていきたいと思えます。

また、今後の復興の支援のきっかけとなるのが、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催の実現であると考えています。日本の復興した姿を、ご支援いただいた国々にごらんにいただき、日本人の礼儀、秩序、たくましさや再度世界にお見せできる絶好の機会と思えます。そして何よりも子供たちに夢や希望を与えることのできるチャンスです。私たち女性会も一丸となって、この招致に向けてお役に立ちたいと思っています。

過日、被災地の新成人が、街作り、国作りを自らにない、日本を変えていきたいという決意を語っておられました。甘えなどない、使命感に満ちあふれた姿に感動しました。逆境は人間の精神を変えるのだと改めて感じました。

明治天皇様の和歌に、「大空にそびえて見える高嶺にも登れば登る道はありけり」。必要なのは道を求める勇氣と努力だと思えます。昭憲皇太后さまの和歌に「さまざまの物思いせし後にこそ、うれしきこともある世なりけり」。苦しみのあとにこそ、真の喜びがやってくるということだと思えます。

信念と愛と勇氣と感謝の思いを持ちながら、明るく温かく勇氣を持って真剣に皆様と共に歩みたいと思えます。」とのご挨拶がありました。

続いて、石原慎太郎東京都知事より、「新年あけましておめでとうございます。今年は大変やっかいな年になりそうです。ひとつは、昨年12月にダーバンでのCO₂削減の世界会議があったものの、CO₂大量産出国の反対にあい、実のある議論ができませんでした。異常気象が通常気象になっているような状況です。二つ目は、アフガニスタンで、白人たちが絶対勝てない戦いをしている。白人の主催するキリスト教圏が支配する世界、それに対抗するイスラム教圏、この混乱がいろんな形で続いている。三つ目はヨーロッパの経済破綻、そのあおりを食って、日本はとんでもない円高になっています。しかし、世界から見れば



日本経済はまだまだ健全です。世界は日本経済に、円に期待しています。

それなのに、日本は単式簿記で国家経済を動かしています。財務諸表がない会社と一緒に。そろそろ、こういったことを考えないとこの国は持ちませんぞ。」との辛口のご挨拶を頂戴致しました。

続いて、岡村正 東京商工会議所会頭より「昨年は大変厳しい試練の年で、今年是我々も再生に向けてしっかりと努力をしていかなければならないと思っております。昨年震災発生直後から、商工会議所も支援活動に乗り出し、義援金の募集・緊急

物資の輸送・人員派遣などを行ってまいりました。現在、被災地で必要なものは工場

を動かす機械ということで、被災地以外の場所ですべて使われていないけれど使用に耐える機械を無償で提供しようという運動を始めたところ、大変多くの方からのご援助をいただき250ほどのマッチングが行われ、現地で大変喜んでいただいております。女性会の皆様にも女性ならではの心のこもった緊急物資の配送などをしていただき、絆の強さを感じた一年でございました。この絆を大事にして次の成長に向かって進まなければいけないと思っております。

ところで、景気の方は新聞などでは緩やかな回復基調などと書かれておりますが、

実態はそれほど甘くなく、ヨーロッパの金融危機・アメリカの成長の鈍さなどを考慮していくと円高デフレも重なり大変厳しい年になるだろうと予想されます。

これを打ち破るためには我々の持っている力を十分に発揮しなければならぬわけですが、政策的には①東日本大震災からの復興、②成長戦略の遂行、③社会保障と税の一体改革、④環境・エネルギー政策、の四点の重要政策を同時に進行させなければ、日本の再生はあり得ないと確

信しております。

これらの成長戦略の中で最も重要なのは、雇用創出のための中小企業の発展で、それが日本の基盤を作ると考えておりますので、これを政府に訴えていきたいと考えています。オバマ大統領も雇用を創出しアメリカの経済を支えるのは、スモールビジネスとスタートアップ企業だと言っています。我々もその立場に則った形で中小企業の強化をいろいろな施策の中心において考えていただくよう、政府に訴え続けていかなければならないと思っております。

また、本日はトップアスリートの方にも

朝日健太郎氏 ● ご挨拶

「本日は、2020年オリンピック・パラリンピック東京招致の思いを聞いていただきたく参上いたしました。2016年には残念ながら東京にオリンピックを招致することはできませんでした。石原都知事に再び手を挙げていただいたことはアスリートとして非常にうれしいことです。」



私たちがなぜオリンピックを目標にするのかといえば、その理由は2つあります。

1つは、オリンピックは選手だけのものではなく、国や町を挙げて行われるものです。私は北京オリンピックに出場したのですが、北京の空港に降り立った途端、もうオリンピックは始まっていた。街中がオリンピック一色で、みなさん歓迎してくださり、中国という国のイメージががらりと変わりました。オリンピックは国・町を一つにするものです。特に今の日本は元気がないとされています。こんな一致団結するチャンスはないと思います。もう1つは夢を見られる場所ということです。オリンピックは、私たちアスリートにとってもアスリート以外の人たちにとっても人生の記憶の1ページになります。それだけ価値のあるものです。私も子供が二人おりますが、東京でオリンピックがあったら子供たちにそんな記憶を残してあげることが出来ます。

私のことを申しますと、今はロンドンオリンピック出場をかけて練習中です。ビーチバレーの競技はバッキンガム宮殿の前の庭園に造られたコートで行われると聞いています。もし僕がオリンピックに出られたときには、みんなでバッキンガム宮殿でイングリッシュティーを飲みましょう！どうぞよろしく願っています。」

柴田亜衣氏 ● ご挨拶

「本日お招きいただいたとき、メダルを持ってきてほしいと言われましたので、最初に見せたいと思います。私は2008年に現役を引退し、今は地域や全国を回りながら水泳の指導をさせて頂いていますが、その時には必ずメダルを子供たちに見て触ってもらっています。でも、最近の子供たちは実際にメダルを見ても、自分でそれを取りたいという子がなかなかいません。オリンピックに出たいと口にする子さえ大変少ないのです。ですから、この日本でオリンピックを開催することで、子供たちに夢を大きく持つてもらいたいと思っています。スポーツは誰もが親しむものですので、一番身近な夢だと思えます。皆様の会社や家庭でのオリンピック招致の想いが全国に広がっていくことができれば、必ず実現できると思っていますので、ぜひ一緒にご協力をお願いします。」



お越しいただいておりますが、商工会議所

は2020年オリンピック・パラリンピック招致を積極的に推進しております。オリンピック・パラリンピックを首都・東京で開催することができれば、国民に夢と感動を与えることはもとより、先の大震災からの復興と再生を果たし、輝きを取り戻した日本を、世界に対して強力にアピールできる絶好の機会となります。招致決定は来年ですが、世論の形成など、本年が勝負の年であり、そのためにも本日出席の皆さまの一層のご理解とご協力を賜りたいと存じます。」とのご挨拶を頂戴しました。

そして畠山笑美子副会長から来賓の方々のご紹介に続き、2020年招致を積極的に推進している、朝日健太郎氏(2008年北京オリンピック男子ビーチバレー出場)と、柴田亜衣氏(2004年アテネオリンピック競泳女子800mで金メダル受賞)よりご挨拶がありました。

引き続き、渡邊佳英東京商工会議所副会長より、「昨年は大変に厳しい年でございます。今年が良い年となりますよう期待したいと思います。先ほどからオリンピックの話がございますが、東京

の一番の弱点は世論の支持率が低いことです。商工会議所としても支持率向上のために尽力したいと思っておりますが、ぜひ皆様のご協力をよろしく願っています。今年はスカイツリーも完成いたしますので、意気消沈している日本を活気づけていきましょう。その中心的役割を女性会の皆様担っていただきたく、皆様の更なるご発展とご繁栄を祝し乾杯いたします。」との乾杯のご発声を頂戴いたしました。

その後は、会食・懇談の時間となりました。庄司温志 総料理長からメニューの説明を聞きながら、美しく彩られたフレンチに舌鼓を打ち、おいしい料理を堪能いたしました。

お食事が終了する頃には、各テーブルにオリンピックのお二人を交えて写真撮影が行われ、終了時にプリントされたものが手渡されるサービスもありました。

お食事の後は、保田和江理事の司会によりお楽しみ会の抽選会が行われました。今年も多くの役員の皆様からご協賛いただき、テーブルごとの当選番号が発表されるたび歓声があがりました。

最後に阿部千恵子副会長の閉会の辞で盛会のうちに会は終了しました。

臨時総会

東京商工会議所特別会議室Aにおいて、
東京商工会議所女性会臨時総会が開かれました。

冒頭、吉川稲会長の呼び掛けで、東日本大震災で被災された方々の為に全員で黙祷を捧げての開会となりました。続けて被災地域の女性会の方からの報告が伝えられ、あまりの惨状に会長ご自身が時折、言葉を詰まらせる場面もあり、皆静かに聞き入りました。

その後、吉川会長より、議事録署名者に高田悦子会員、田邊衛子会員が指名され、今回の総会の議題である「東日本大震災の義援金募金」についての報告に移りました。

この募金は、全国商工会議所女性会連合会より、被災地を除く全国女性会に強力依頼がなされたもので、東京商工会議所女性会に於いては、3月25日に全会員への呼びかけをおこない、多くの会員のご協力のもと、総額10,465,494円

総会

（協力会員数167名）の義援金募金が集まったとの報告が事務局よりなされました。義援金は4月28日までに全国商工会議所女性会連合会に送られ、寄贈先については、被害状況等を勘案し、全商女性連が被災地女性会が所在する商工会議所女性会連合会と相談の上、決定することになっている、とのことでした。

会員からは、長い復興への道のりにおいて、今後も様々な支援活動を展開した方が良いのではないかと意見があり、会長から、もちろんその予定で、当面は社会貢献委員会を中心に支援策を考えるが、今後の事態に合わせて有効な方法を考えていきたいとの説明がなされました。

最後に阿部副会長より、義援金募金への会員の多大な協力についての謝辞とともに、今後も女性会は「手をつなごう、女性の絆」をスローガンに励まし合い、支援しあい、進んでいきましよう、との言葉があり、閉会となりました。

最後に阿部副会長より、義援金募金への会員の多大な協力についての謝辞とともに、今後も女性会は「手をつなごう、女性の絆」をスローガンに励まし合い、支援しあい、進んでいきましよう、との言葉があり、閉会となりました。

東京商工会議所国際会議場において、東京商工会議所女性会平成23年度総会が開かれました。

吉川稲会長より、被災地を見舞われた天皇皇后両陛下に対し、被災者の方が瓦礫の下から咲いたお花を捧げられたエピソードの紹介がなされ、厳しい現実にあっても、強い決意があれば必ず復活への道は開けると語られました。また、困難を乗り切るための皆の心がけとして、感謝の気持ちを持つことが大切であり、「ありがとう」の言葉をもっと使おうという提案がなされ、満場の拍手が起りました。

その後、会長より、議事録署名者に清水喜久子会員、丸田清美会員が指名され、本日の議件である、平成22年度事業報告案、同収支決算案、の説明が事務局よりなされ、満場一致で可決されました。次に、平成23年度事業計画案について、会長から、このたびの震災の被害の深刻さをふまえて、今後も女性ならではのきめ細かな復

興支援活動が求められているという認識のもと、会員同士が手を携え、相互研鑽しながら、女性経営者としての資質の向上、会員企業の事業発展への様々な取り組みがなされるべきであるとして、これまで以上に力強い数々の事業の計画案が示されました。その後、収支予算案の説明が事務局からなされ、いずれも満場一致で可決されました。

議事終了後、井上象英副会長より、挨拶がなされ、閉会となりました。

その後、4階特別会議室に場を移し、山口玲子副会長の司会により懇親会が開催されました。懇親会では、冒頭高野秀夫理事・事務局長から、震災後の女性会の活動への御礼と、さらなる復興への支援を期待する旨のご挨拶と乾杯のご発声をいただきました。途中、新入会員の須賀多佳子さん、前川佑子さんのご紹介とご挨拶を交え、最後は畠山副会長、吉川会長からご挨拶があり閉会となりました。

浜松全国大会

〜全国308女性会から約2800人が集いました〜

平成23年10月7日、アクトシティ浜松において、全商女性連全国大会が開催されました。

開会に先立ち、東日本大震災、集中豪雨等の被害に遭われた方、宮崎全国大会以来の物故者の方々に黙祷が捧げられ、主催者である、全国商工会議所女性会連合会吉川稲会長より、「人は人の力で元になります。405女性会24000人の会員の仲間とともに、この花の町浜松から、社会の復興に向け、協力して、歩みを進めませんか。」との挨拶がありました。また、日本商工会議所岡村正会頭から「女性会連合会のネットワークのさらなる強化をされ、今後も女性会連合会が商工会議所内の重要な組織として長く貢献していただく事を期待します。」とのご挨拶をいただきました。

その後、開催地の浜松商工会議所女性会渡邊記余子会長、浜松商工会議所御室

健一郎会頭からのご挨拶のあと、鈴木康友浜松市長、照井恵光経済産業省関東経済産業局長、川勝平太静岡県知事代理・増田久幸静岡県西部地域支援局長からお祝いの言葉を頂戴しました。

続いて、恒例の出席女性会の紹介が行われ、全国から参集した各女性会の皆様との力強いエールの交換が行われました。

その後は、第10回女性起業家大賞授賞式に移り、最優秀賞ほか2部門の発表が行われ、最優秀賞を獲得された住川奈美



会場は熱気にあふれていました

氏が受賞者を代表して受賞の喜びを述べられました。

最後に2020年第32回オリンピック競技大会の招致に関する決議が採択され、吉川会長から次回第44回全国大会開催地の北九州商工会議所女性会へ全商女性連合会旗が引き渡され閉会となりました。

記念講演「経営雑感」

スズキ株式会社代表取締役会長兼社長 鈴木修氏

「日本はどうなるのか、子ども手当1万円をもらって喜んでいてどうする、子どもたちに借金を負わせるおつもりか。」という辛口の切り出しから講演が始まり、東南アジアへの産業の流出をこのまま放置すれば、10年経ったら、日本の産業は5割になるといって、警鐘に会場も静まりかえりました。その後、物作りにかけてきたスズキのモットーである「ものづくりは、工場にお金落ちていく、アルミの一滴は血の一滴、徹底的に無駄を省け。」という迫力のある、経営実感に皆聞き入り、危機を打開していくのはいつも当たり前前での努力なのであるということに改めて感動いたしました。

浜松全国大会に思う

会員 小池淑子

入会半年の私にとって初めての経験、全国大会。しかもバスでのエキスカーションと、自ずと気持ちも高まります。特産はうなぎしか知らなかった私はこの地の歴史や文化に触れ少し高尚な気分を味わいながらの現地入り。各会場入口はガーベラなど沢山の花が飾られ、私たちを迎えてくれました。浜松市は市制百周年、女性会創立10周年、政令都市移行5周年と記念すべき節目の年で開催地としても意味深いものを感じました。

3月11日の東日本大震災をはじめ、台風や豪雨などの被害も甚大でした。そんな状況下で、今大会参加者は何と308女性会、2767人。その人数も桁外れ、困難にあっても負けない前向きな姿勢、その熱気、情熱が大きなパワーとなって押し寄せて来る感じでした。震災にあわれた東北代表はいち早く女性会から届いた義援金や支援に深く感謝していると述べ、相互間の連携、地域を越えたネットワークの強さを再認識したと話しました。印象的で心に沁みました。女性の逞しい一面を顕著に感じられた今大会は、私にとって良い刺激でした。今後も女性会の活動を通し、学びの心を広げていこうと思います。

「気持ちを楽しんでくれる人生の法則」

―精神科医からの提言― 精神科医・立教大学心理学部映像身体学科教授 香山リカ氏

平成23年3月11日、東商ホールにおいて、
関東商工会議所女性会連合会・東京商工
会議所女性会共催の講演会が精神科医の
香山リカ氏をお迎えして行われました。

*

小泉清子関東商工会議所女性会連合会
会長から、「この不安な時代の中、とても
いいテーマだと思います。悩み多き時代だ
からこそ、今日は大変楽しみに期待して
おります。」とご挨拶があり、講師の香山
リカ氏が登壇されました。

精神科に來る原因・理由は、本人に問
題があるかと思いますが、実はそうで
ないことが多いです。災害にあつたら
そんなところに住んでいるのが悪いと決
めつける。人にはいろいろなことが起る
ものなのに、人はどうしても「犯人捜し(原
因を突き止める)」をしたくなるのです。
それは「防衛のメカニズム」によるも
ので、人間が常に不安に苛まれているこ
とから来ています。私には関係ない、と
自己暗示をかけないと暮らせなくなつて

いるのですが、これは意味がありません。

人生とは想定外のアクシデント・トラ
ブルの連続なのです。

そんな時、対処法がないわけではあり
ません。「誰にでも起きること」というた
えずあわてず現実を受け止めて、最善策
を考えることがよいのですが、私たちは
それが苦手です。どうしても過去にさか
のぼつて鬱々としてしまいます。

と、話が佳境に入った2時45分ごろ、会
場に激しい横揺れが起こり、国内観測史
上最大のM9.0の東日本巨大地震が発
生。東京の震度は5強で、参加者は皇居
へ避難し講演会は中止されました。この時
は想像もできませんでしたが、多くの被災
地の方へのお見舞いと、お亡くなりになつ
た方へ哀悼の意を表します。



「人間関係をつくるコミュニケーション力」

明治大学文学部教授 齋藤孝氏

平成24年3月16日、東商ホールにおいて、
関東商工会議所女性会連合会・東京商工
会議所女性会共催の講演会が明治大学教
授の齋藤孝氏をお迎えして行われました。

*

まず小泉清子関東商工会議所女性会連
合会会長より「経営者にとってコミュニ
ケーション力は大切なもの。どんなお話を
いただけるのか楽しみながら勉強したいと
思います。」との開会のご挨拶があり、齋
藤孝氏が登壇されました。

私は大学で教師を養成しており、「コミュ
ニケーションのポイント」は身体だと教え
ています。その人の身体で教室の雰囲気
が決まるのです。
新しいことに関心を持てばボケません。
新しいことがわかったら驚いてください。
自分自身が驚かないと相手に伝わらない
のです。それには自分のテンションを上げ
ましょう。人と会うときはジャンプして
から会うといいです。反応する身体のも
とは身体をやわらかく、液体化させるこ

と。肩甲骨を動かすと息が継げてにこや
かになります。

さて、押し弱い民族のコミュニケーション
ション方法は相手の話を聞いて、懐に入つ
て話をする。日本語が日本を作つて
おり、日本語を使わないと日本人になら
ない。日本語の返事のイエス・ノーは相
手の声や表情とセットになつていて、それ
を読み取らなければ「コミュニケーションに
なりません。みんなが心がければ会議が
濃く、短くまとまります。みんなが自分
の持っているものを出し合えば交流がう
まくなります。

最後に吉川稲東京商工会議所女性会会
長がはねながら登壇し、「舞台の端から端
まで使つての楽しいお話をありがとうございます。
有意義に過ごしていきたいと思つています。」
とのご挨拶があ
り、名残を惜し
みつつも閉会と
なりました。



社会貢献委員会主催
東日本大震災復興支援特別講演会

今、本当に必要な被災地支援とは

双葉町商工会女性部部长 吉田 孝子氏



平成23年5月26日、震災復興に対し、今後東京商工会議所女性会としてどのような支援が出来るかを伺うべく、双葉町商工会女性部部长吉田様をお招きしての講演会が開催されました。

*

竹ノ内副委員長の開会の辞に続き吉川会長より、「未曾有の震災から2カ月がたちました。明日は我が身ということも念頭に置き、実体験を伺いながらこの後どのような支援が出来るのかをお教え頂きたい思います。」とのご挨拶がありました。続いて吉田様のご講演に移りました。

3月11日午前まではいつもと変わらず、午後は知人とお茶を飲んでいたりする突然、こんなにやくを立てて揺らしたような大きな揺れが3分ほど続いたのでしょうか。家具は倒壊し、ガラスは飛び散り、瞬く

間にものが散乱して行きます。

津波の警報がなりましたが、まさかここまでとは半信半疑でした。とりあえず高台へと車で避難する目の前で地割れが起り、幹線道路は波打ち、怪我人などで街は大混乱。避難所はすでに満員で、電話も不通になっていました。

目撃した津波は第一波より二波の方が大きく、まるで3階建のビルが押し寄せてくるかの如くでした。海が牙をむいた瞬間です。第一波の引いた後、一度家に戻られた方々の多くが犠牲になりました。津波は2つの街を完全に消滅させ、景色は一変しました。その後の原発の爆発は物凄い地震響きで、新設のスポーツ施設が空振で大きく揺れました。

暫くして、町長の方針で地域の人と一緒に過ごせる埼玉への避難となりました。避難生活の中では、衛生環境を守る為

の自主的なチーム編成や協力体制などが自然にできました。そして、子ども達の存在は大きなものでした。登校していく子供たちを「いつてらっしゃい」と送りだし、「お帰りなさい」と迎え入れる。こういった交流が心を癒したような気がします。

避難所にも、プライバシーや衛生環境は守られても人との繋がりはあまりないホテルスタイル、また、居住環境は厳しいけれど周りとの心の交流が持ちやすい共同住居など様々。家族の状況に応じて使い分けられました。又、親戚や友人のお宅に身を寄せていた被災者が避難所に戻ってくるといふケースも相次ぎました。先の見えない避難生活にストレスがかかり、双方の生活に影響が出てしまうようです。結局、不便であっても避難所の共同生活を選ぶ方も出ています。

今回の震災で子ども達は我慢する、助け合うということを学びました。満ち足りた生活を当然としていた今の子ども達にとって、よい経験となったと考えています。そして、どのような状況でも助け合い、物事を前向きに考え進んでいく、これこそ大切であり、この気持ちを以て今後も復興に取り組んでいきたいと思っています。

とのお言葉で締めくくられました。

講演終了後竹ノ内副委員長より、厳しい状況を明るくユーモアを交えながら話し頂く吉田部長から、温かいお人柄とパワーを感じましたというコメントがあり、続いている質疑応答でも吉田部長は丁寧な回答されました。現地の女性会に対してどのような支援が出来るかとの質問には、被災地と一口にいつても少しの地域の違いで状況が大きく異なるうえ、現時点ではまだ会社も人もちりぢりで、女性会としての活動の始動はもう少し先の事になりそうだとのお話がありました。

最後に井上委員長より「災害は一瞬で全てを消し去ってしまう。そんな時も信頼関係、人間関係、優しさなど神様から授かったもので乗り越えることが大切と感じました。今回のお話しが今の生活を振り返るきっかけとなれば嬉しく、今後も支援活動を続ける予定です。」との言葉で締めくくられました。



一つひとつの言葉に重みを感じました。



交流委員会

歌舞伎観賞会

於・明治座

新緑の5月、東商女性会恒例の歌舞伎観賞会に際し、東日本大震災の影響により一時は中止の声もありましたが、皆様のご要望に応え、吉川会長、井上副会長、志摩副委員長はじめ、45名の参加をいただき、開催されました。16年振りの歌舞伎公演となる明治座にて、夜の部、三遊亭円朝の怪談斬を元にした「牡丹燈籠」を中村勘太郎、七之助、市川染五郎など若手花形役者に依り、又軽妙なタップ踊りの「高坏」を大変良いお席で堪能させて頂きました。幕間の食堂でのお食事も美味しく、大変お得な歌舞伎観賞会であったと思います。



研修委員会

「聞いて知って得するコーナー」
東日本大震災の被災状況報告と知っておくべき土地の登記について

丸田清美氏

5月17日、東商ビル401会議室で研修委員会の席上にて、毎行われることになった『聞いて知って得するコーナー』の第一回目として丸田清美氏より、ご講演いただきました。

*

阪神・淡路大震災の時には、ボランティアの人たちによって土地の境界杭が沢山、復興はもっと早かったのではなかったのかと、言われました。

測量は復興の一步と言われます。今回は監督官庁である法務省から各地方自治体へ通達文書が素早く発信され、自衛隊や被災地ボランティアなどにも、しっかりと通達された為に80%の杭が助かりました。津波をまぬがれた杭も沢山ありました。

関東大震災や東京大空襲のおり、自分

の土地を失ってしまった方々が多くおられました。そのような経験を踏まえて不正登記を提出させないために特例措置が設けられました。被災され避難をされておられる方々は避難している先の登記所に出頭して、統括登記官の審査を受けてから管轄法務局に書類を回して頂きます。これは法人登記、法人の印鑑証明も同じです。

さて、東北管内の土地家屋調査士でも行方不明の方々が、当初、大勢おられました。咄嗟の時に無事を確認できるのが携帯電話の災害伝言板と連絡網でした。私は女性会にもこのようなシステムがあればと思います。

土地というものは住む人たちの心がしみ付いています。今回の震災は、がれきの撤去作業に6年、がれきを撤去しなくてもは測量は難しく、更に4〜5年の月日が測量や登記の申請に費やされるでしょう。このたびの震災復興には20年はかかるのではないかとわれています。これから長きに渡る東日本の復興、その時だけではなくてかわり続ける事が大切であると思えます。

『杭を残して悔いを残さず』この言葉を皆さん忘れないでください。

交流委員会 第23回(平成23年度第1回)

東商女性ゴルフ会

in 蓼科

平成23年7月2日(土)、蓼科の「フォレストカントリークラブ三井の森」で、交流委員会主催のゴルフ会を開催しました。

梅雨時にも関わらず青空が出迎えてくれ、3組12名が参加し、プレイ終了後は東商蓼科フォーラムにて懇親会と、成績発表・表彰を行いました。

優勝は、白井圭子さん(OUT 48、IN 51 GROSS 99)。

交流委員会主催のゴルフ会としては第一回目ということもあり、吉川会長から優勝トロフィーが寄贈され、初の会長杯贈呈となりました。

交流委員長の畠山副会長からは、「ゴルフ会は同好会として発足し、既に大会を22回開催してきました。今回東商女性ゴルフ会として第一回目を開催できたのも、今までの同好会の歩みがあったからこそです。」と、これまでの歩みに対する感謝の言葉がありました。



三鷹の森ジブリ美術館・井の頭自然文化園

視察会および交流会

雨上がりのさわやかな風の吹く中、東京・武蔵野・町田商工会議所女性会共催事業として、「三鷹の森ジブリ美術館・井の頭自然文化園 合同視察会および交流会」が行われました。

展示です。山と積まれた資料のある準備室から始まり、美術・演出・作画・仕上げと各工程の様相がわかり、自然とワクワクしてしまいました。

ここは、宮崎駿監督の「こんな美術館にしたい」という思いが濃く反映されているとのこと。おもしろくて心がやわらかくなる美術館！、一般的な美術館にはない特別な空間がありました。

名残惜しい思いを抱えながら2時間の見学を終え、井の頭自然文化園へ移動しました。

井の頭自然文化園は都立動物園として戦時中の昭和17年（1942年）に開園、今では動植物の観察のみならず彫刻芸術も鑑賞できる総合文化施設として、また心和む公園として幅広い年齢層に親しまれているそうです。

点々と配置された彫刻を見ながら奥へ進むと、故北村西望氏がアトリエを構えたその場所に「彫刻園」が見えてきます。館内に入ると真正面から目に飛び込むのが長崎平和祈念像の原型です。250余

点の迫力ある作品を鑑賞し、こと平和への思いに心打たれました。

彫刻園から少し歩くと、「リスの小径（こみち）」があり、間近で見る放し飼いのリスの躍動感に惚れ惚れしました。動物園一番の人気者、アジアゾウの「はな子」は御年64歳、日本で飼育されている象の中では最高齢とのこと。ユラユラ揺れる大きな体を見上げる皆様の眼差しが温かく、いつまでもお元気で、と言っているようでした。

視察会終了後、吉祥寺の街のにぎわいを感じながら徒歩で移動、17時から吉祥寺第一ホテル8階「天平」にて着席ビュッフェスタイルによる懇親会が開催されました。間野百合子武蔵野商工会議所女性会会長のご挨拶で今回の企画に込められた思いを伺い、改めて感謝すると共に、稲垣英夫武蔵野商工会議所会頭の「経済振興にますます女性の力を」というご挨拶に勇気づけられました。畠山笑美子副会長の乾杯の音頭の後、懇親会半ばには、林家ライス・カレイ子ご夫妻が華やかに登場され、環境漫才に大いに会場が湧きました。

青木旦美 町田商工会議所女性会副会長の締めに、懇親会は終了となり、参加者にはお土産として武蔵野産の小麦

を使った「武蔵野地粉うどん」が武蔵野商工会議所女性会の皆様から手渡されました。この度、ご尽力下さった関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

左：さわやかな風の中、有意義な時間となりました。下：若い人や外国人のお客様にも人気のジブリ美術館。



社会貢献委員会主催「勉強会」

「かけがえのない子供たちと50年」 〜まっすぐに子供と向き合うために〜

講師：社会福祉法人青少年福祉センター専務理事 **長谷場 夏雄氏**

東京商工会議所特別会議室にて、82歳を迎え、肺気腫を患っておられるにもかかわらずお越しいただいた長谷場氏の熱意のこもったお話を伺うことができました。

＊

東日本大震災では、両親共に失い孤児となつてしまった子供は200人以上。片親を失った子供は数えきれません。どれだけ沢山の子供たちが、先行きに不安を抱いていることでしょう。

私たちの運営している自立援助ホームは、就職して社会人の一歩を踏み出せるようになるまでの間、生活指導や生活支援を行い、家庭的な雰囲気の中で子供たちが社会的自立をめざします。ホームから仕事に通い、その給料で寮費、日用品、小遣いをまかない、残りを貯金して、来るべきアパートでの一人での生活自立に備えます。私たちが、子供と接するときに大事なポイントはいくつかあります。

一つは、尊厳をもって子供を見ること。

お前は良い子だとほめ（全体受容）、でもここは悪いと注意をし（部分否定）、十分にほめて育てることが大事です。

二つ目は、「しなければならぬことはする。してはいけないことはしない。」このことを、問答無用で教えます。百万遍でも解るまで丁寧に教えることです。

三つ目は、子供の目線から外れないで、子供の気持ちを聞くこと。何故乱暴するのか、何故反抗するのか、全てを受け入れる気持ちで、自分を認めてくれる人がいると子供が分かることが大事です。

子供たちを心から愛することが子供を成長させ、自信を持たせるのです。相手に分かるまで愛情表現をすることです。「可愛くば、三つ叱って、四つ褒め、五つ教えて良き人となせ。」という言葉があります。私たちが、「やさしさの分かる良い子を育てたい、可愛がられ社会に受け入れられる子に育てたい。」その思いで、毎日孤軍奮闘しております。

ビジネス事業委員会

新入会員とのビジネス交流会

東商ビル4階にて、従来の「ランチミーティング」の流れを踏襲し、美味しいお弁当を頂きながらのスタートです。まず吉川会長より東商女性の歴史と、ご自身が女性事業家として大切にされていることなどのお話がありました。

次に、各事業委員会からそれぞれの活動について説明がありました。新入会員さんはこの後、どの委員会に所属しようかと熱心に聞いていらっしゃいました。

いよいよ、新入会員一人ひとりの自己紹介：9名のご参加でしたが、実にバラエティーに富んだ業種の方々のご挨拶に、今度は既存会員が興味深く話を伺いました。

ビジネス交流を存分にして頂きたいという趣旨により、後半は全体を小グループ（8名×5グループ）に分け、テーマI「自社の事業を発展させるために何をやっているか」テーマII「ピンチを如何に切り抜けたか」という2つを掲げて交流しました。

まずは各テーブルで自己紹介をし、テーマについてご自身の経験や努力をお話しいただくと、グループ内からは質問が飛び出

したり、感心したり、共感したりと、とても内容の濃いひと時が流れました。途中、一度メンバーを二部入れ替えし、さらにテーマの内容を深めての意見交換は、時のたつのも忘れるくらい白熱した様子でした。

その後、自由に名刺交換タイムとし、最後に各グループで話し合ったそれぞれのテーマのまとめを、グループリーダーから発表して頂きましたが、事業の内容こそ違っても皆経営者として一様に大切と答えたことは、「人と人の絆、何にも増して人間関係が重要である」ということでした。次回さらには人数を増やして開催致したいと思っておりますのでご期待下さい。



小グループでの意見交換で交流が深まる

ビジネス事業委員会主催講演会

40年間黒字経営を果たす企業戦略とは……

株式会社アブリコット代表取締役、経営士、東商女性会副会長 島山笑美子氏

ビジネス事業委員会委員長、阿部千恵子副会長の「本日は、40年間黒字経営を続けておられるエクセレント企業の代表取締役でいらっしゃる島山笑美子氏より、我々経営者にとって夢の経営戦略のコツを伝授していただきましょう。」という開会ご挨拶から始まりました。

*

最初にW・チャン・キム氏とレネ・モボルニユ氏によって提唱された経営戦略レッドオーシャン、ブルーオーシャンについての解説をいただきました。

「**レッドオーシャン戦略とは**…既存の市場でシェア争いを繰り広げること。ライバルと同じ市場で戦う限り、どれほど巧妙に戦略を練ったところで、いずれ価格競争という消耗戦を強いられるだけなので体力勝負になってしまう。」

ブルーオーシャン戦略とは…競争のない

世界を創造すること。つまり、現状を分析して新たな顧客価値を創造し、新規の需要を掘り起こし、未開拓の大市場で戦うことである。

例えば、最近流行りのQBハウスは(野田総理も御用達である)、不要なもの(シャンプー、ひげそり)を断捨離し、顧客にとつての新しい価値(低料金、短時間、予約不要)を創出して新しい市場を切り開いて成功した例であるが、今企業が目指すべきは、まさにこのブルーオーシャン戦略である。

弊社においてのブルーオーシャンは、大企業のコンプ्यूター部門に弊社の人材が入っているため、弊社を外すことが出来ず、また競合がなかった。

顧客に弊社のトータル的な技術サービスのノウハウが活用され続けている。それが安定した黒字経営に通じており、小さな会社でもこの力強い戦略があれば利益・

売上高が伸び生き残れる。」

演題は少々難しい企業戦略の内容でありましたが、島山副会長がOLから独立起業するに至った愉快なお話やら、子育て主婦と社長業を見事に両立した様子が、当時アメリカのウォールストリートジャーナルテレビ社の番組で全米に放送され、話題の日本企業として注目を浴びたこと等を、ビデオを見せていただきました。さらには、会社の事業拡大、その後の経営環境の変化によるさまざまなピンチの乗り切り方、失敗から学んだこと、創業より守ってきたこと等々を、スポーツウーマンらしくゴルフのラウンドにたとえて、スタート



のティーンショットはナイスショット！そのあとラフにつかまったり、OBを連発したりとアップダウンの激しいコースに四苦八苦する如く、涙と笑いの40年だったと実に面白おかしく、時にその女性らしい感性にほろりとしたりしながら聞かせていただき、あつという間の90分の講演でした。

島山氏の経営者としてのスタンスのひとつには「己を責めて人を責むるな、及ばざるは過ぎたるより勝れり」という徳川家康の書より引用されたお父上からの言葉

を大切にされていたり、また、創業より守ってこられた経営者としてのポリシーの中には、お母上の口癖であった「何事にも謙虚に、実れば実るほど頭を垂れる稲穂かな」を挙げられたり、「社員に感謝」を何度もおっしゃられたりするお姿に、非常に人間的な一面と、経営者としての凛とした生き方を見せて頂いた感があります。

一口に「40年間黒字経営を果たす」といっても、並大抵のことではありませんか。私たちも本日の

貴重なお話を自らの会社経営の参考にさせていただき、これからも女性経営者として他の範となるよう頑張っていきたいと思えます。

そして、アントレプレナーとしての、素晴らしい女性会の先輩を持ったことを幸運に、また誇りに思います。

農業生産法人 豆太郎 バスツアー

東商女性会「食の研究会」主催『農業生産法人豆太郎バスツアー』が開催されました。このツアーは当研究会初の試みとして企画され、「日本の食文化」について考察するとともに、農商工連携事業の取り組みについて学習することを目的として実現しました。

秋天下、埼玉県児玉郡神川町所在(株)ヤマキ御用蔵本社・農業生産法人豆太郎へ向け、東商ビル前を出発致しました。車中、吉川会長からのご挨拶等があり、その後現地到着までの間に参加者全員が自己紹介を行ないました。

担当者の出迎えを受け、早速に(株)ヤマキ 木谷富雄社長、(有)豆太郎 須賀利治社長から、自然農法と有機栽培の仕組みについて、また、農商工連携事業の取り組み等についてご講演を頂きました。ご講演の要旨は、以下の通りです。

【木谷富雄氏】 自然農法60年の実績と経験による「安心」「安全」「健康」な野菜作りは、須賀さん親子の指導のもと広く行なわれ

て来ました。今日のように、生産者と消費者が顔の見える関係で交流する機会を持つ事が今後より一層大切です。また、更に農工商が一体化することが、日本の食文化を守り育てることにもなると考えております。自然農法・有機栽培で育った野菜は細胞が細密でしっかりとおり、葉脈もシンメトリーで美しく、また、何より連作が出来るのです。自然の生態系に則った農業が大切、と考えております。

【須賀利治氏】 土を作り、土の力を最大限に発揮させる農業を行なっていました。なるべく自然に近い農業を継続して行なって来ました。豆を中心に作っておりますが、豆には土を肥やす力があります。そこからできたものが、身体に良く、美味しく、栄養があるので。農作物は、愛情をかければ、それに応えてくれる。だから作る喜びが出て来るのです。

講演終了後、昼食時には、「豆腐作り」を体験。新鮮で美味しい有機栽培野菜のお料理とともに堪能することができました。

た。

勉強会

東京商工会議所特別会議室において東商女性会「食の研究会」主催の勉強会が開催されました。ミネラル研究家中山栄基氏を講師にお招きし、「現代人に足りないものは何か」をテーマにご高話を拝聴しました。

中山先生は30年以上にわたり医療品・食品・農業・水産・酪農・日用品などに用いる化学物質の毒性研究を続けてこられました。業務用野菜の種にも農薬が添加されており、現代の土中にはケイ素・カリウム・リン・マグネシウムが大変多く、そこで栽培された作物のミネラルバランスは化学肥料のバランスだそうです。

農薬や化学肥料に汚された土壌を自然に生き返らせる為には途方もない年月がかかるそうです。そうした中で病気もまた難病・奇病が増え、治せない病気が横行しているそうです。体の劣化とは即ち酸化です。劣化(酸化)した体を何とか元に戻せないものか。そんな思いの中で、中山先生は長い毒性研究のなかから地球

上の100にも及ぶ元素の中で毒の多くを構成するH・O・C・Nの4つの元素に着目し、野生植物を2000度以上に加熱して前述の4つの元素を減溶、あるいは除去し植物マグマを作られました。現在はこの植物マグマを使って化学物質を使わない植物の栽培を始め、人々の体から化学物質を排する実践活動をされています。ちなみにこの食物マグマのミネラルバランスは自然界の生物と一致するそうです。

実際に食物マグマを使って栽培されたり

んごを手に入れましたが、9月と11月に収穫されたものであるにもかかわらず、羨びることも無くりんごの香りさえすることに驚きました。自然界のミネラルバランスを持つ植物の力を見た気がいたします。

最後に思いがけない植物マグマのお土産までいただき勉強会は終了しました。食の研究会ではこれからも有意義な勉強会を開催していく予定です。



熱心に語る中山先生



バスツアー参加の皆様

研修委員会主催「論語に学ぶ経営学」

「一貫論語塾」(全3回)

日本の商工会議所創立者である渋沢栄一翁が、その理念を経営に生かした事で有名な「論語」。それを今こそ改めて学ぶと、論語普及会学監・伊興田 覺先生をお迎えし、国際文化会館講堂にて全3回の講演を頂きました。



縁に結ばれてお目にかかれた。」と始められました。そして

「幼少期に論語の素読を叔父から学び、以来戦争や大病を経験しつつも何時も論語だけは一貫し読み研鑽を重ねています。」

と先生の人生での縁を例えにされ、その大事さを説かれました。

先生は大正5年生まれの御年96歳。日本の政治経済の指南役と言われた東洋思想家で陽明学者の安岡正篤師の高弟で、深甚な知識と人格が感じられる著書の数々は政財界ほか多くの方々が心の柱としています。今回テキストとして使用された『現代訳 仮名論語』の書体は、先生の自筆によるものでした。

第1回目6月18日、先生は「会場満席に集いし縁は、縁の中でも第三の縁である、心縁にあたり、心縁の内さらに志を同じうする、同縁により集いし縁は縁尋機妙による不思議なもの。時がかなわぬもので偶然に動き、そのルールは天地人・三才の理。集いし皆には、よき

第2回目9月16日、素読を大切にされる講義は井上副会長の先唱に合わせ「為政第二」の唱和から始まりました。「これは吾十有五にして学に志し…を含む部分。年を重ねる度、人にはどんなに正しいと思

い実行しても間違いと気づく事がしばしばあり、孔子は、そうした過ちを絶対悪とはせず、気がついたら改めればよい、むしろ過ちと知りながらこれを改めないことが本当の過ちと説いています。紀元前551年生まれ孔子は、波乱に満ちた73年の天寿を全うするまで、常に反省をし、足らざるを改める努力を生涯に渡って

続けました。それにより多くの弟子たちから尊敬を集めても、自分は他人と少しも変わらないに至らない人間だと語り、学び続けた人です。」と先生は説かれました。

第3回目10月15日では先生は「里仁第四」を選ばれ、「人間の発展をした孔子も、世の中には人間の認識できる範囲を超えた世界があり、人間が物事を思考し判断できる範囲には限界があるとしている。」と語られました。「どんな過程を経て今の

状況になったのか、時間的経過と過去の経緯を思い起して問題点を探れば、やがて打開策が見つかる。経営者や人の上に立つ者は必ずや一つの信念と義を持ち続け、達成するまで常に一人悩み耐え辛抱する事こそ肝要です。」と、本当の強さを身につける事や耐える事の重要性を教示頂きました。論語では常に子は四を以て教えており、それは文・行・忠・信。例えば「述而第七」では、文は典籍の研究、行は実践意欲、忠は思いやり、信は人と人との信頼関係、ということ。自分の家族をまともに治められない者に会社等の組織を立派に治める事はできません。「長とし行う事は自分の身を修める事。その為には内なる心を正しくし、何時も感

情を正常に保つ必要がある。」とも繰り返し説かれました。

最後に松下幸之助氏との出会いに触れ「二度会っただけで生涯忘れえぬ印象を与える方が稀にいます。私たちも内側から徳が滲み出るような人間になりたいものです。素読や仕事、何事も誠実に取り組み、その姿勢を長く蓄積していく事が大切です。」とご講話を締め括られました。

人の心を養う道を説いた儒教、孔子とその弟子たちの言葉を3回で学ぶ事は大変難しい事でした。驚愕の大災害を経験した私たちには、「艱難に素しては艱難に行う。〔中庸〕人間は様々な苦しみに打ち克ちながら生きてゆかなくてはなりません。艱難に遭遇して不平不満を抱くのではなく、そこに至って全力を尽くすことです。」とのお言葉も生涯の指針になりました。



伊興田氏



出席者の集合写真

東京商工会議所女性会主催

東日本大震災復興支援 チャリティーコンサート

満場の銀座ヤマハホール(333席)では、
いつまでも拍手が鳴りやみませんでした。

銀座ヤマハホールにて、東日本大震災復興
興支援チャリティーコンサート「東儀秀樹
がいざなう雅楽の世界」が開催されました。

「被災地の子供たちに いま私たちができ
ること」をテーマに、この主旨にご賛同の
雅楽師・東儀秀樹氏には出演に際して絶
大なご協力を頂きました。チケットは完
売し、当日は会員以外の皆様も多数足を
はこばれ、岡村会頭の奥様や東商役員の
皆様ほか、ご家族で楽しまれるお顔も拝
見出来ました。

笙・龍笛・箏篋といえは雅楽の古式ゆ
かしい調べを思い起こしますが、舞台では
ホルストの「JUPITER」、「枯葉」等
聴きなれた名曲も演奏され、楽器の持つ
奥行の深さを体感致しました。曲の合間
にはミニレクチャーがあり、雅楽と楽器に
対する知識が深まった事も素晴らしい体
験でした。また、自ら被災地に赴き音楽
によって人々を励まし続けている東儀氏が、

震災直後作られた「子供たちに優しい未
来を」とアンコール曲の「ふるさと」はひ
ときわ心に染み入り、ホール内が思いを一
にする温かな空気に包まれた事は感動的
でした。素晴らしい演奏とトークを頂いた
東儀秀樹氏、そして今回の催しにご協力
下さった全ての皆様に感謝致します。

なお収益金は、被災した子供たちを支
援する、東日本大震災みやぎ子ども育英
基金(宮城県)・東日本大震災ふくしまこ
ども寄付金(福島県)・いわての学び希望
基金(岩手県)に寄付されます。(寄付詳
細はHPに掲載)



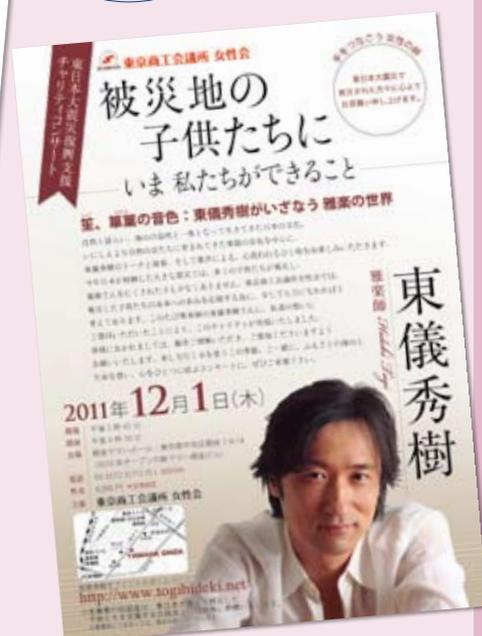
‘箏篋’ (ひちりき)の音色が響き渡る

Message

東儀 秀樹氏より
東商女性会の
皆さまへ

千年以上前から生きている古典の雅楽も愛し、西洋クラシックも、ポップス
もロックもジャズやフュージョン、いろいろな民族音楽など、ありとあらゆる音
楽を楽しんで、そして表現もしてきました。そして今さらですが、僕は自分が
音楽家であること、それがどんなに意義深いことか最近ますます感じます。
ちょうど新しいアルバムの製作期間に東日本大震災が重なりました。大変な
事態の中で僕に何ができるのか。簡単に答えは見つかりはしません。でも人々
の心が落ち着きかけるときが来るならば、少なくともその時にこそ音楽のちか
らを発揮させるときなのかもしれないと感じました。なぜなら音楽は様々な色彩
で様々な人たちに励みや元気を届け、共感とともに心をひとつにできる。と信
じているからです。音楽のちからで、手を取り合ってどんなときもくじけず勇
敢に前に向かって進もうと、たくさんの人たちにエールを贈りたいと思いました。
多くには幼い息子がいますが、その無邪気な様子を見てると子供の計り知
れない可能性や夢を感じ、いつもわくわくさせてもらっています。一日一日がと
ても充実していると感じさせてくれます。そして願うことは、子供たちの未来が
明るく優しいものであってほしい、思いきり自由に羽ばたいてもらいたい、と
いうことです。もちろん僕自身も、世のすべての人も。

このコンサートにいらっしゃる皆さんには、ただただ自由に楽しんでい
ただけらと思いました。僕もともに楽しんでそこにいました。楽しさや
喜びを感じる事はちからを生み、そこから未来をひらいてゆけますように。
これからも祈りと希望を音楽に託し、様々な色彩の言葉として皆さ
んにお届けします。



COVER PHOTO

撮影者 佐藤ケイジュ

スタジオで広告等の撮影するのがいわゆる「仕事」。しかし、スケジュールに隙間が出来ると、気ままに風景を撮りに出かけるのが最近のお気に入りとなっています。言うならば「趣味」でしょうか…笑

<秋の裏磐梯>

何処というわけではないのですが、自然の姿は実に美しいと思います。最近、日本の（特に東北地方）景色を撮りに出かけます。今回の写真は、裏磐梯で出会った晩秋の景色。生い茂っていた木の葉を落としても、立木達は「凜」としていました。美しい、日本のひとこまです。



行事 東商女性会今後の予定 平成 25 年

開催月日	内容	場所
1月29日(火)	東京商工会議所女性会 新年懇親会	ザ・プリンスパークタワー東京
3月15日(金)	東京商工会議所女性会・関東商工 会議所女性会連合会共催講演会	東商ビル
5月23日(木)	関東商工会議所女性会連合会 第28回総会 横須賀大会	よこすか芸術劇場(神奈川県)
9月5日(木)・6日(金)	第45回全国商工会議所女性会 連合会 宮城全国大会	ゼビオアリーナ(宮城県)

訃報 平成24年7月1日(日)
元相談役・元常任理事
山岡富美江様(享年89歳)
(株式会社山岡毛皮店 代表取締役社長)

募集

○あなたも記者に!

あなたの東商女性会イベントでの思い出を、冊子やホームページの中に残しませんか?『東商Lady』と東商女性会ホームページでは、会員皆様のご投稿をお待ちしております。

- ・記事は、「です・ます調」で統一して下さいますようお願い致します。
- ・写真は5枚程度を各自で選択のうえご提出ください。(記事だけでもOKです。)
- ・記事・写真の提出締切は、イベント開催日から7日後までです。
- ・『東商Lady』のバックナンバーは、ホームページよりご覧いただけます。

女性会ホームページ：<http://joseikai.tokyo-cci.or.jp/>

○表紙写真募集中!

『東商Lady』の表紙を随時募集中です。

- ・原則として、デジタルデータでやり取りできる事を前提とします。
- ・ある程度解像度の高いものが要求されます。(画素数が10.0メガ以上で最高画質)

応募とお問い合わせは、women@tokyo-cci.or.jp 宛お願い致します。



会員募集

経営者を取り巻く環境が日々変化する現代。
こんな時代だからこそ、
女性同士の絆づくりをしませんか。

女性会とは?

女性経営者の向上と社会福祉の増進を目的に活動している組織です。全国410商工会議所に設置され、約23,000の方が加入されています。東京商工会議所はその中でも最も長い歴史を持ち、約360名の方が加入されています。

加入資格は?

東京商工会議所の会員事業所の女性経営者、役員の方。法人・個人は問いません。

入会方法は?

申込書に必要事項をご記入いただきます。申込書は事務局までご連絡ください。

年会費について

女性会年会費として10,000円をご負担いただきます。なお、初年度は加入月によって、ご負担金額が以下の通りとなります。

- 4～9月加入：10,000円
- 10～12月加入：5,000円
- 1～2月加入：2,500円
- 3月加入：当年年会費はいただきません。



東京商工会議所女性会事務局
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2
TEL:03-3283-7577 FAX:03-3211-8278

INDEX

- 02 巻頭対談
- 08 新年懇親会
- 12 23年度総会
- 13 浜松全国大会
- 14 関商女性連・東商女性会共催講演会
- 15 社会貢献委員会特別講演会
- 16 委員会報告
- 17 視察会・交流会
- 18 委員会報告
- 19 ビジネス事業委員会主催講演会
- 20 食の研究会
- 21 研修委員会主催一貫論語塾
- 22 チャリティーコンサート
- 23 今後の予定 その他

東商Lady

2012年12月20日 / 第18号

発行所 東京商工会議所
会員交流センター

発行人 東京商工会議所女性会
会長 吉川 稲

編集 東京商工会議所女性会



商工会議所女性会